

2018年11月28日「ビジネスにおけるAI活用」セミナーレポート @大手町ファーストスクエアカンファレンス

先日の慶応義塾大学環境情報学部 武藤佳恭（たけふじ よしやす）教授を基調講演としてお招きしたAI活用セミナーも盛況のうちに終了しましたので、その様子をレポートします。一年中半袖姿で過ごされることの多い武藤先生は、この日も真っ赤な半袖のポロシャツで熱く、講演いただきました。



【AIの研究者における本物と偽物の見分け方】

武藤先生のお話しは、先ず、政府関係者や大手企業に自分はAIの研究者だと言って売り込む人が後を絶たないが、「本物と偽物の見分け方を教えます。」というところから始まりました。

（インパクトファクター）

米倉涼子主演の「Doctor X」や二宮和也主演の「ブラックペアン」で有名になったインパクトファクター（論文の提出回数や引用回数、その論文の重要性など）の数値を聞いてみるとわかるというお話しでした。偽物はインパクトファクターの数値が無いか、低いとのこと、マイナーな学会やメディアで論文を出すことは出来るが、他の研究者に引用されたり、重要性が低いとこのインパクトファクターの数値は低いかゼロとのことでした。

（武藤先生はAIにおいて、もっとも引用回数が多いとのこと。takefujiで調べるとわかるそうです。）

（オープンソース）

また、AIはご存知のようにオープンソースも多いため、引用して自分が開発したような顔をしている人もいるので気をつけるようにとのことでした。

【機械学習とディープラーニング】

更に、画像処理などは、ディープラーニングが必要だが、売上予測や業務で使う場合は、機械学習の方が処理も早いので、無理してディープラーニングを使う必要は無いとのことでした。日本人が AI=ディープラーニングだと思っているのは、マスコミの影響ではないかと分析されていました。

【AI の成功要因】

特に、力説されていたのが、AI の予測の成否はどれだけデータを揃えて、整理できるかにかかっているということで、成功の 8 割くらいをデータ整理が占めているとおっしゃっていました。

弊社と実施した共同プロジェクトの例も発表されており、その過程でデータ整理の手法や対象に一番時間がかかったことにも触れられておりました。

【AI を業務で有効活用するためのアドバイス】

業務で AI を上手に活用するには、業務処理フローやルールをセットして、有効なデータセットを流し込めば公平な判断を行えるので、人間は、その結果をどう活かすかに集中することをお勧めするとのことでした。

【レポート後記】

既に Microsoft が発表していますが、サブスクリプションの office365 を契約しているお客様の Excel2019 から、Python が使えるようになるようです。

弊社も AI のサービスを行っていますが、Excel のみならず社内データを統合できる Attack Board は分析したいデータを Excel に渡すだけで AI の活用が可能になります。

そのため、より AI の業務活用が広がっていくものと期待しています。